



## I 金先生記念講演

金奉吉先生は、本センター発足の翌年 2002 年に富山大学に着任されてからずっと本センターに併任教授として寄り添い、本センターと韓国の諸大学との交流に尽力されました。今年 3 月をもって退職されますが、これまでの本センターへの金先生の貢献を想い、センター一同の感謝を込めて、3 月 1 日に極東地域研究センター講演会「金奉吉教授記念最終講演」を開催しました。基調講演には、公益財団法人環日本海経済研究所調査研究部主任研究員の中島朋義先生をお迎えし、「中国の TPP 加入申請とアジア太平洋」というお題でお話いただきました。中島先生の講演に続き、金先生は「東アジアにおけるメガ FTA と韓日関係」というお題でお話いただきました。当初計画では対面での講演会を企画していたのですが、新型コロナウイルス感染拡大が富山でも深刻な状況にあることから、金先生も慣れ親しんでいる極東地域研究センターオフィスから遠隔での講演会となりました。ZOOM には韓国や台湾からの参加者も含め 23 名、オフィスにはセンタースタッフを中心に 10 名ほどが集いました。

金先生のお人柄がよく表れた講演でした。本センターとともに様々なプロジェクトを通じて研究者として成長してきたこと、東アジアが地政学的にも地経学的にも急変するなか、地域的な包括的経済連携協定 (RCEP) が新冷戦時代の東アジアの秩序形成と平和構築と経済発展の軸たる多国間強力の枠組みとなることを期待するとともに、日韓関係に尽力されてきた金先生らしく、日韓関係が歴史問題から安全保障や経済まで相互不信が増幅しつつある「合併症」の治療を模索する日韓両国関係に優しいまなざしをもつ講演でした。

講演会には、森口毅彦経済学部長からも祝辞をいただき、金先生のゼミのみなさんから花束の贈呈がありました。ゼミの学生さんの立派な謝辞が印象的でした。講演会終了後には、遠隔で参加したみなさんと談話する機会もあり、温かい雰囲気での講演会が開催できました。金先生、お疲れ様でした！



写真1 講演会を終えての記念写真

(文責：堀江典生)

## II 人を大切にする職場環境に助けられて

2019 年 7 月から勤めてきました研究支援員を、3 月にて退職することになりました。

不妊治療との両立が難しかった前職を退職後、以前から関心があった環境問題に関連する仕事を探していたところ、当時こちらのセンターに在籍されていた山本雅資先生の研究支援員募集の情報に目が留まりました。面接時に、治療との両立について問題がないか伺うと、センター長の和田先生と山本先生には、治療を優先する日があっても問題ないご理解を頂き、とても嬉しかったことを覚えています。

働き始めてから、センターの風通しの良さには驚きました。私が個人的に解決すればよいと思っていた問題でも、親身になって全体で対応して下さい、いつも穏やかで居心地の良い雰囲気がありました。この環境のおかげで、仕事も治療も順調に進めることができました。出産をはさみ、今年度の 5 月から、センターが推進する人間文化研究機構 (NIHU) ネットワーク型基幹研究プロジェクトの研究支援員として、馬駿先生と楊潔特命助教の元で復職させて頂くこととなりました。子どもの都合で何度も休むことがありましたが、無理のないペースで仕事を進めてもらって良いとお気遣いを頂いたり、事務室の谷口さんにも、忙しい時に急に穴を開けてご迷惑をおかけしているにも関わらず、いつも仕事のサポートだけでなく子育ての助言までも頂いたりし、本当に感謝しております。



写真2 谷口さん(右)と一緒に

治療や子育て中の女性は、仕事を探すのが難しいこともあるかと思いますが、私はセンターと出会い、たくさんのサポートを頂きながら働くことができたので、本当に恵まれていたと思います。

4 月からは、中高いづれかの教員として再出発します。いつの日か、センターの先生方と授業や講演で一緒にできることを夢見ています。私がセンターの活動を知った時のように、子どもたちにもワクワクする世界との出会いを提供したいと思っています。先のことには不安もありますが、いつでも遊びにおいでとの堀江先生のお言葉に甘え、度々お邪魔させて頂いたら幸いです。

今後も、極東地域研究センターと皆様の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(文責：山本千尋)

### Ⅲ 北東アジア経済発展国際会議 (NICE) 第3回 Future Leaders Program (FLP) で富山大学チームが審査員特別賞受賞

今年2月18日に北東アジア経済発展国際会議 (NICE) が2022北東アジア経済発展国際会議イン新潟／第13回日ロエネルギー・環境対話イン新潟が新潟市朱鷺メッセ・スノーホールにおいて開催されました。この国際会議では、第3回 Future Leaders Program (FLP) の大学生・大学院生によるプレゼンテーションコンテストも開催され、同プログラムに応募した富山大学経済学部3年生の湊屋愛さん、佐藤奈々帆さん二名による富山大学チームが審査員特別賞を受賞しました。FLPは、「北東アジアの未来シナリオ」というテーマのもと、大きな経済発展の可能性とともに政治・社会的な不安定要素も併せ持つ北東アジアの将来に向け、未来を担う学生たちが自由な発想でシナリオを描くコンテストです。書類審査によって本選出場チームが選考され、本選がプレゼンテーションコンテストとなっています。今年の本選出場チームには、東北大学・東北学院大学チーム、新潟大学チーム、富山大学チームが選出され、本選会場にてプレゼンテーションを競いました。結果、奨励賞該当者はなく、東北大学・東北学院大学チームに新潟県知事賞、審査員特別賞に新潟大学チームと富山大学チームが選ばれました。



写真3 授賞式にて

富山大学チームは、「就業体験が切り開く未来シナリオ：北東アジアインターンシップネットワーク構想」を発表しました。北東アジア諸国は、それぞれ固有言語によって労働市場は分断されています。一方、グローバル化が進むなかで、若年層は積極的に英語ベースでの就業体験を求める傾向にあります。ワーキングホリデーもその選択肢のひとつですが、主なホスト国であるオーストラリアでは、英語能力を求められない低賃金労働に甘んじ、キャリア形成に結びついていない現実があります。国際的な人事労務管理研究においては、若く柔軟な現地採用人材として「自発的な海外駐在員」が注目されていますが、北東アジア諸国においてはホスト国の母国語習得を前提とする労働市場のせいで、そうした人材を積極的に採用する環境にはありません。富山大学チームは、大学・政府・企業の連携のもとに、ワーキングホリデー制度の課題を克服しつつ、北東アジアにおいて英語ベースでの安心・安全な就業体験を実

現させることで、言語制約のないインターンシップを実現させ、それによって北東アジアの多様性を尊重しつつ地域内で共に暮らし、働き、学ぶ環境を整え、北東アジア全体の経済統合を促そうと呼びかけています。



写真4 富山大学チームの発表

私は、指導教員として引率していましたが、会場では自分のことのように緊張し、湊屋さんや佐藤さんだけでなく、私まで発表終了後の昼食のお弁当が喉を通りませんでした。湊屋さんと佐藤さんは、大学ではゼミの時間だけでなく、ふたり自主的に集まって何度も原稿やスライドに磨きをかけ、プレゼンテーションの練習をし、当日も会場の片隅で練習を繰り返していたのを私は知っています。その努力がこの賞につながり、極東地域研究センターのスタッフもみな喜んでいました。



写真5 密かに会場の隅で練習する二人と発表前の気合いの笑顔

(文責：堀江典生)

### Ⅳ ロシアのウクライナ侵攻に寄せて

ロシアによるウクライナ全土への侵攻がつづいています。ロシアのウクライナに対する一方的な戦争行為は許されるものではありません。わたしたちは、ロシアのウクライナに対する侵略行為を非難するとともに、ウクライナやロシアにおいて苦境に立つわたしたちの仲間たちに寄り添いたいと思います。わたしたちには、ウクライナやロシアに多くの研究仲間がいます。ウクライナに家族や友人を残す人々、被災地から避難している人々、自国の侵略行為に動揺し苦しむ人々、反戦表明を規制する政府の試みに抗い果敢に声を上げる人々、経済制裁により困窮する人々、最前線で人道支援にあたる人々、そうした人々のなかにわたしたちの仲間がいます。そうした仲間たちにわたしたちは寄り添っていきます。

わたしたちは、ウクライナ侵攻に伴うロシア政府の様々な決定が、ウクライナに多大な犠牲をもたらしているだけでなく、ロシアにおいても著しく人権が侵害され、自由で開かれた学術の世界が分断されている現状を憂慮しています。地域研究を担う研究センターとして、地域研究に関わるすべての仲間たちのダイバーシティを尊重しつつ、彼らとの紐帯をこれからも大切にしていきたいと思っています。

(文責：堀江典生・和田直也)